

郵船クルーズ株式会社の株式一部取得について

本日、アンカー・シップ・パートナーズ株式会社並びに弊社が運営するファンドは、日本郵船株式会社様（以下「日本郵船」）との間で、同社連結子会社である郵船クルーズ株式会社様（以下「郵船クルーズ」）株式につき 50%を譲り受けることで合意いたしました。

郵船クルーズは、1989年の設立以来我が国を代表する豪華客船である「飛鳥」シリーズを保有・運航する会社です。これまで初代飛鳥、後継船である飛鳥Ⅱについて、役職員・乗組員の全スタッフが力を合わせ安全運航を全うしながら、お客様には高品質の船旅を提供することによりその満足度を高め、26年連続で「クルーズシップ・オブ・ザ・イヤー」という栄えある賞を獲得、現在もこの記録は継続中です。弊社は、こうして「飛鳥」ブランドを文字通り「日本のフラッグシップ」として、他の追随を許さない域まで到達させた同社の弛まぬ取組に心より敬意を表し、大変高く評価させていただいております。

弊社は、我が国に不可欠な経済インフラである海運業界への貢献を企業理念とし、船舶投資第1号ファンドから第4号ファンドを通じて多くの船舶に投資を行い、我が国を代表する海運会社や商社に貸与（用船）してまいりました。なかでも日本郵船にはもっとも多くの船舶をお使いいただいております。日本郵船は、我が国のみならず世界を代表する総合海運会社であり、最近では特に「安全と環境」への配慮に重点を置き、基本理念である「Bringing value to life.」に従いグローバルな海上輸送に携わっておられます。弊社は、日本郵船の公正かつ透明な経営姿勢ならびに役職員の皆様の多様な専門性と挑戦する気概などから、海運業界に携わる一企業として、日々様々な事柄を学ばせて頂いている次第です。斯様な中、これまでの取引を通じて築いて参りました相互の信頼関係により、このたびの合意にいたしました。

日本のクルーズ市場は、海外の海運会社による参入もあって裾野を広げながら順調に拡大を続けていますが、クルーズがライフスタイルのひとつとして定着しているアメリカやヨーロッパの先進諸国に比べると、いまだ途に就いたばかりと言わざるを得ません。

今後、多様な観光資源にすぐれ人々が豊かなわが国においては、クルーズの更なる浸透に疑う余地はなく、なかでも「飛鳥」のような最高級の「和のおもてなし」を提供できる船舶に期待を寄せるお客様は今後も着実に増加するものと予想されます。

かかる環境において、弊社といたしましては、郵船クルーズのこれまでの輝かしい実績と幅広い経験、常に高い安全意識を持ちながらお客様の満足度向上のため徹底的に真摯に向き合う姿勢から、同社がこれからも日本のクルーズマーケットを牽引していくものと確信し、大きな飛躍のチャンスを目の前にしておられる同社に新たな株主として資本参加することをここに決断いたしました。

弊社は長期的目線で投資案件に向き合うことを基本方針としており、関係者との永続的な信頼関係を維持しながら事業パートナーとして郵船クルーズ、及び「飛鳥」ブランドの一層の発展に貢献して参りたいと考えております。

一方で郵船クルーズが「飛鳥」ブランドを継続的に発展させていくためには、現在運航中の飛鳥Ⅱをお客様サービスのさらなる向上のために大幅な改装を実施すること、そして将来、世界のクルーズ市場でナンバーワンと評価されるような新造船の建造を実現することが必要であると考えております。

弊社が船舶投資ファンドとしてこれまで10年以上にわたり培ってきた船舶金融の専門性は、郵船クルーズの飛躍のための資金調達に必ずやお役にたてるものと確信しております。

また、弊社はこれまでの船舶投資案件を通じて、我が国の有力地域金融機関との広く堅いネットワークを作り上げてまいりました。世界一周クルーズが可能なハードとソフトを併せ持ちながらも、この国を愛し日本沿岸を一つのホームグラウンドとして展開する「飛鳥」を運営する郵船クルーズと、地元を愛し地方創生に様々な形で向き合い実現させる各地域のパワーは、弊社の持つ地域金融機関ネットワークとのコラボレーションによりこれまでと違った形でのシナジーが創出できるものと期待しております。

そしてこれらのことは、郵船クルーズの永続的な発展を含めた企業価値最大化だけでなく、「飛鳥」が、お客様が新たな旅の楽しさと感動を体感できる船舶として、日本各地に活性化をもたらす一助となるに違いないと考えております。

なお、日本郵船は引き続き郵船クルーズの大株主として経営に関与し、運航面のノウハウ・人材の提供にてサポートをいただきます。郵船クルーズが広い意味で日本郵船グループの1社としてこれまでと変わらない存在感を持ち、今後もいかにその力を発揮されるものと期待しております。

多くの「飛鳥」ファンのお客様、郵船クルーズ、日本郵船ならびに「飛鳥」事業に関わられるすべてのご関係先様各位におかれましては、今後も変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

以 上